

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム だんらん (2)	評価実施年月日	平成20年6月18日
評価実施構成員氏名	・氏家敦子 ・中田香織 ・井口加奈子 ・藪田一美 ・坂田美喜子 ・大里孝		
記録者氏名	氏家 敦子	記録年月日	平成20年6月27日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念は常に全スタッフが把握して、それに基づいて働いている。		
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念はスタッフルームに掲げており、常にスタッフはその理念の元に働いている。		
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	会社の玄関、スタッフルームに理念を掲示し、利用案内時にわかりやすく説明しており、また運営推進会議の際、理解してもらえるよう地域の方々に伝えている。	○	理念の掲示場所を居間にも掲げる様にして、常に理念の元に緊張感を持ち努める。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	毎日朝・夕のセラピー犬との散歩時、日中の入居者さんとの散歩時には必ず挨拶を行い、日常的なお付き合いが出来るよう心掛けている。		
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会へ加入して回覧版を通して地域活動を知り、また運営推進会議での町内会長からの情報で交流する機会を持つよう努めている。	○	だんらん祭りのご案内やボランティアの募集を広報に載せてもらう等して、地域との交流に努める。
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	今年も回覧版にだんらん祭りのご案内をして、気軽に地域の方に来て頂く等して地域貢献に努める。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>スタッフ会議や日頃のミーティングで昨年の評価を活かせる様に常に話し合いを持っている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1度ホーム内の取り組みを地域の方に説明しており、それに基づいての意見を取り入れる等してサービスの向上をはかっている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>グループホーム連絡調整会議等に定期的に参加し、サービスの質の向上に努めている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>権利擁護に関して積極的に学ぶ機会はまだできていない。</p>	○	本年度は権利擁護に関して学ぶ機会を設け、スタッフ一人一人に権利擁護の意識付けをする。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>スタッフで身体拘束委員会を設立しており、拘束についてのアンケートを取るなどして身体拘束についての意識を持つ事で拘束虐待の防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時、ご本人の不安や疑問点が残らぬ様に文書と口頭で十分な説明を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情を入れる箱を設置している。また、苦情処理要綱を設け対応できるようにしている。現在意見・苦情がない為、日常的に入居者との話し合いを通して思いを把握できるようにしている。	○	苦情を入れる箱が1ヶ所にしかないために各フロアに設置する。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族の面会時には受診内容、ホーム内の様子等を必ずお話している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在苦情はないものの、今後苦情があった場合には迅速な対応をしていく。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフの意見はミーティングやスタッフ会議で話をしてもらい、その意見を日々の生活に反映している。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	病院受診等でスタッフの人手不足が生じる時は前もって他のスタッフに勤務してもらう様話し、調整をしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	スタッフが代わる場合などは利用者が混乱しない様に入居者一人一人に説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>職員が育成出来るような研修を常日頃設けており、仕事をしながらトレーニングしている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>同業者との交流や勉強会等を通して全スタッフがサービスの向上を目指している。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>スタッフのストレスがたまる様にミーティングで相談の機会があったり、親睦会開催等の行事がある。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>定期的な勉強会を通して全スタッフ向上心を持てる様働きかけている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご本人からの不安な思いや求めを受け止め、各スタッフにも話し、不安な思いを少しでも軽減する様努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>面談時、相談時にはご家族の不安な思いを聞出し、不安な思いを出来るだけ解消している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際は、本人・家族の必要としている支援を見極め、サービスの選択が出来るような対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学して頂き、職員や他の利用者など、場の雰囲気に馴染んで頂けるよう家族とも相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に料理したり、散歩に行ったり共に行う事で昔身に付けた知恵を教えて頂いたり支え合う関係を築いている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族面会時には、ご本人の日常の様子を伝え、また一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の関係が途切れないように、関係の理解に努め、本人の思いを出来るだけ表現するよう支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が築いてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、また来て頂けるよう雰囲気作りをしたり、馴染みの場所を時には訪れるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を常に把握し、体操や散歩したりお互いが関わり合いが持てるよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後も関係を断ち切らない付合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	月1回の会議や日々の生活で気付いた事、本人の希望や意向を把握し、状態の変化が生じた場合も本人本位に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際は、ご本人家族から生活歴や馴染みの暮らし方等を聞き、またその都度や日常の会話の中から把握するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。	毎日のバイタルチェック、一人一人の過ごし方、心身状態を把握し、何か特変あった際は管理者(看護師)に相談し、適切な対応が出来るよう指導を受けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員の適切な管理のもと、日々の話し合いや月1回の会議にてアセスメントを行い、本人・家族・スタッフなどの意見を反映した介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行い、本人に状態変化が生じた場合は必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や実践・結果・気づきなどを個別記録に記入し、必要に応じてスタッフ会議を設け、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人ご家族の希望に応じて福祉用具を購入している。受診時には移送サービスを活用し、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	避難訓練では、消防署の協力を得られている。今回の訓練から民生委員、町内会、市役所の方々等、幅広い協力を得られる予定。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	実際に他のサービスを利用したいという希望がなかったが、そう言う希望があれば支援していきたいと思う。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターから入居状況・入居依頼等の相談にとどまっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護師であり、日常の健康管理や特変時には相談すると共に、医療関係者と連携体制を密にし、支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい専門医に相談したり、受診が必要な人には定期的に受診できるように支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護師であり、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した際は、ソーシャルワーカーとの情報交換や相談を密に行い、出来るだけ早期退院できるように連携している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	往診医が居ない為、ホームでの看取りは行っていない。重度化、終末期の際には協力医療機関での対応となる事をFaに話し、また提携HPとも話し合っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	最後まで本人の能力を見極め支援し、今後予測できることを話し、準備している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>別の居宅へ移り住むという環境に変化があると精神的にも不安定になりやすい為、家族・本人にかかわるケア関係間で十分な話し合いや情報交換を行い、ダメージを少なくするよう努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>自室入室の際のノックは必ずしてトイレなどの声かけは小声でしている。また入居者の誤認に対する否定的な発言をしないなど尊重した対応記録を行っている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>のんびりゆっくりしたペースで働きかけ、その方その方の思いや楽しみを引き出し、入居者が望んでいる事を知り、自己決定を出来るよう支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者の希望を察知できるよう、日頃の会話を大切にし、昼夜逆転にならない配慮や入浴拒否が長く続く場合などの声かけにも工夫していくと共に一人一人のペースを大切にしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。</p>	<p>個性を大切にし、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援し、ご本人ご家族とも相談しながら月1回の床屋訪問の利用をしている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>普段の生活の中から好みや食べたい物を聞き、献立にも季節感を取り入れ、色取り盛り付け個々に合わせた調理方法など工夫している。また、一人一人のペースに合わせて調理の準備、盛り付け片付けを分担して行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	各自の好みに応じた飲酒、おやつを提供している。糖尿病の人に対しては、手作りでカロリーを控える工夫もしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表の活用で排泄パターンを知り、介助を拒む人には過度な介入をしないよう配慮しつつも身体の清潔が保てるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	各自の希望に合わせた入浴を行っている。入浴を好まない方に対しては、声かけの工夫きっかけ作り等、日頃から職員同士で話し合い自然な流れで入浴して頂くよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の生活習慣を知り、夜中に起きて来られる方にもゆったりとした対応で混乱なく休んで頂けるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の力を活かした役割を依頼し、みんなで協働している。楽しさや喜びを実感できるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に入居者の方のお金は事務所金庫でお預かりしている。自己管理出来る方はその方の希望や力量に応じ所持して頂き、買い物時自分で支払が出来るよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p> <p>天気の良い日には近くの公園まで散歩に出かけたり、畑・犬の散歩・買い物・ドライブ・ゴミ投げ等いろいろな機会を作り、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p> <p>お花見、動物園見学、林檎狩り等行事を通し、ご家族と一緒に外出する機会を設けている。また、日常会話の中から各自の興味・関心を知るよう心掛けている。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p> <p>希望に応じ、自由に電話をかけられるようにしている。また、遠距離のご家族から荷物が届いた時にはご本人から電話して頂く等、ご本人の感謝の気持ちを伝える支援をしている。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>ご家族、知人友人等の訪問時お茶を出し、ゆっくりと過ごして頂けるよう支援している。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>身体拘束委員会を設置し、年1~2回の勉強会を目指していたが、昨年度は実施できなかった。今年度は職員に身体拘束に係るアンケート調査を実施している段階で、これから具体的な勉強会を設ける予定になっている。</p>		
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p> <p>日中玄関に鍵をかけておらず、自立している方は職員に行き先を述べ、自由な行動が出来るよう支援している。一人での外出に無理がある方で一人で出て行こうとされる人にはさりげない見守り付き添いを行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は自室でゆっくり過ごしたいと自室に引きこもりがちな方に対してもさりげなく様子を把握したり、職員同士で日中の様子を確認しあっている。また、夜間は巡回等で安否確認を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	各自の能力、認知の状態に応じ、ご家族とも相談しながら危険を防ぐ取り組みをしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の状態に応じ、予め事故に結びつくことがないか話し合いをしたり、ヒヤリはつとや事故報告等で今後の防止策を強化している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	スタッフは定期的に救命講習を受けており、応急手当や初期対応の実践を学んでいる。また、管理者が看護師で日中・夜間を通し、急変事故発生時の指示を受ける体制が出来ている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時対応で日中・夜間を設定しての避難訓練を年2回実施、運営推進委員会を通し地域の方の協力体制の確認も行っている。地震・水害等の災害時対応として非常食、水の確保を行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	一人一人の状態の変化、リスクについては早期にご家族に説明し、ご家族と一緒に対策等を考えながらその方の生活が安心して送れるよう継続的な話し合いを持っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日のバイタルチェックで異変時はすぐに看護師である管理者に報告している。また、入浴時さりげなく皮膚点検等を行うようにしている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬ファイルを作成し、どのような持病でどのような薬を服用しているのか理解している。薬の内容が変更になった時は全員が情報を共有するようにし、症状の変化にも気をつけている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>便秘の及ぼす影響を理解し、食事内容の工夫や体操・散歩等、体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>一人一人の状態に応じ、声かけ見守り誘導が必要な人など、必要な支援を行い、口腔内の清潔保持に努めている。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食の食事摂取量のチェックをしており、摂取量の少ない人には食事以外で補食となる物を提供したり、食事提供時に各自の嗜好に合わせた代替品を提供する等の工夫をしている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>インフルエンザの予防接種は入居者・スタッフとも必ず行っている。また、各感染症に対してはパンフレット等の常備で予防や対応策が明記されている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾は使用したら毎回漂白消毒をし、包丁やまな板、個人のタッパ類などは毎日消毒を行っている。食材は常に新鮮で安全だと思われる物を使っており衛生管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物全体が淡いピンク色をしており、暖かい印象である。玄関前には春から秋にかけ旬の花が植えてある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間である場所に関しては生花があり、利用者さんの作品を飾ったりして明るく親しみやすい場所になっている。また、カーテンなどで光の調整をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間である居間にはゆったりとしたソファがあり、テレビが備えられくつろぎやすくなっている。リビングテーブルではコーヒータイムをされたり、廊下では空間を作って座れるよう椅子を置いてある。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の愛着のある家財(または仏壇であったりする)などを持参していただくようにしており、ご本人が過ごしやすいように支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	トイレ内で使用し汚染されたパットは新聞で包み速やかに処理をし、汚れた場所も掃除を行う。また、換気をし温度管理もまめに行っており、湿度などは加湿器で調整している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりの設置、浴槽内のすべり止めマットを使用し、安全で自立した生活を送れるよう工夫している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>各部屋の表札、トイレの表札を大きな文字で本人の写真を貼るなどしてわかりやすくし、見やすくする等して混乱を防いでいる。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏場は畑や花植え、夏場はクリスマスのイルミネーションを飾る等して、季節毎の雰囲気を楽しめるように支援している。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> 毎日ある ② <input type="radio"/> 数日に1回程度ある ③ <input type="radio"/> たまにある ④ <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 ② <input type="radio"/> 利用者の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 利用者の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① <input type="radio"/> ほぼ全ての家族 ② <input checked="" type="radio"/> 家族の2/3くらい ③ <input type="radio"/> 家族の1/3くらい ④ <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① <input type="radio"/> ほぼ毎日のように ② <input type="radio"/> 数日に1回程度 ③ <input checked="" type="radio"/> たまに ④ <input type="radio"/> ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)